

## 岡山城三之外曲輪跡

原田悠希

### 《遺跡概況》

岡山城は市の中心部に位置する、岡山県を代表する城郭です。岡山城三之外曲輪は城域の最も外側に位置します。二之丸、三之曲輪を囲うように逆コの字に配置されており、内側は中堀、外側は外堀によって区画されています。外堀は小早川秀秋の時に旧来の低地や自然流路を利用して掘削し、廿日堀とも呼ばれています。京橋付近の曲輪南西側には町人地が広がりますが、曲輪の大半は武家地で占められています。曲輪北側には池田光政により岡山藩学校が建設されました。第二次世界大戦時に焼失しており、現在は校入口にあたる泮池部分のみ残っており、国の史跡に指定されています。外堀に接して北から伊勢宮口門、山崎町口門、常盤町口門、大雲寺口門、紺屋町口門の5つの門が配されています。京橋から西へ進み北へ折れた西国街道は、山崎町口門から城外へ続きます。また、伊勢宮口門からは津山往来が、常盤町口門経由で庭瀬往来がそれぞれのびてました。

市街地の中心部ということもあり、曲輪内では各開発が計画され、それに伴い発掘調査をおこなっています。曲輪ということもあり各調査区からは近世の遺構が確認されています。その多くを占める柱穴列や区画溝等は、絵図と対照させることにより当時の居住範囲や建築様式を復元することが可能となります。そのほか、土壌（ごみ穴）や墓、水琴窟からは当時の生活の様相などがリアルに再現されます。ハレノワの建設に伴いおこなった調査では、文献に残る大村火事の痕跡を確認できました。周囲一帯を巻き込んだ火事では多くの被熱痕跡をともなった焼土や瓦、生活雑器が廃棄されていました。

遺物は土器（備前焼、かわらけ、陶磁器等）、瓦、木器（箸、下駄、椀等）をはじめ小札や鏡などの金属器をはじめ近代の遺物（岡山大空襲にともなう当時の食器や道具類、焼夷弾）なども見つかっています。

近世以降の岡山を知るうえで貴重な遺構が広がる三之外曲輪、遺構を直接見ることはできませんが、地割などでその痕跡を追うことができます。

### 《参考文献》

神谷正義ほか 2008 『岡山城三之外曲輪跡 - 岡山市立中央中学校校舎改築に伴う発掘調査 -』 岡山市教育委員会  
河田健司 2021 『岡山城三之外曲輪跡 - 岡山市表町三丁目10番11番23番24番地区市街地再開発事業に伴う発掘調査 -』 岡山市教育委員会  
西田和浩 2016 『川崎医科大学総合医療センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』 岡山市教育委員会

### 《交通》

JR 岡山駅から徒歩 10分ほか

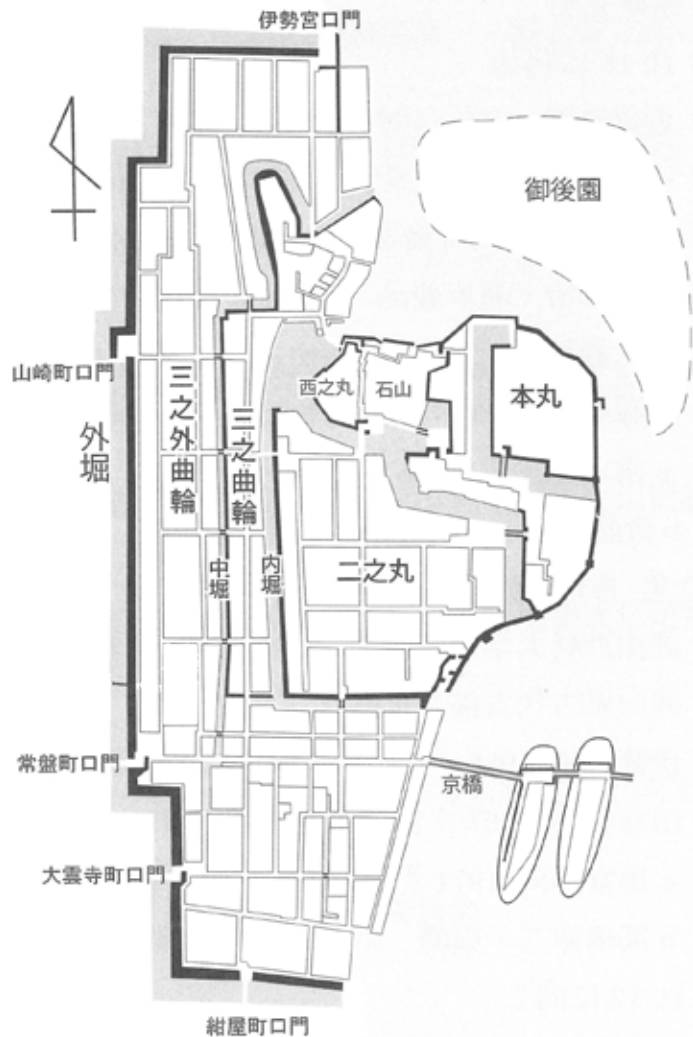


図1 岡山城模式図

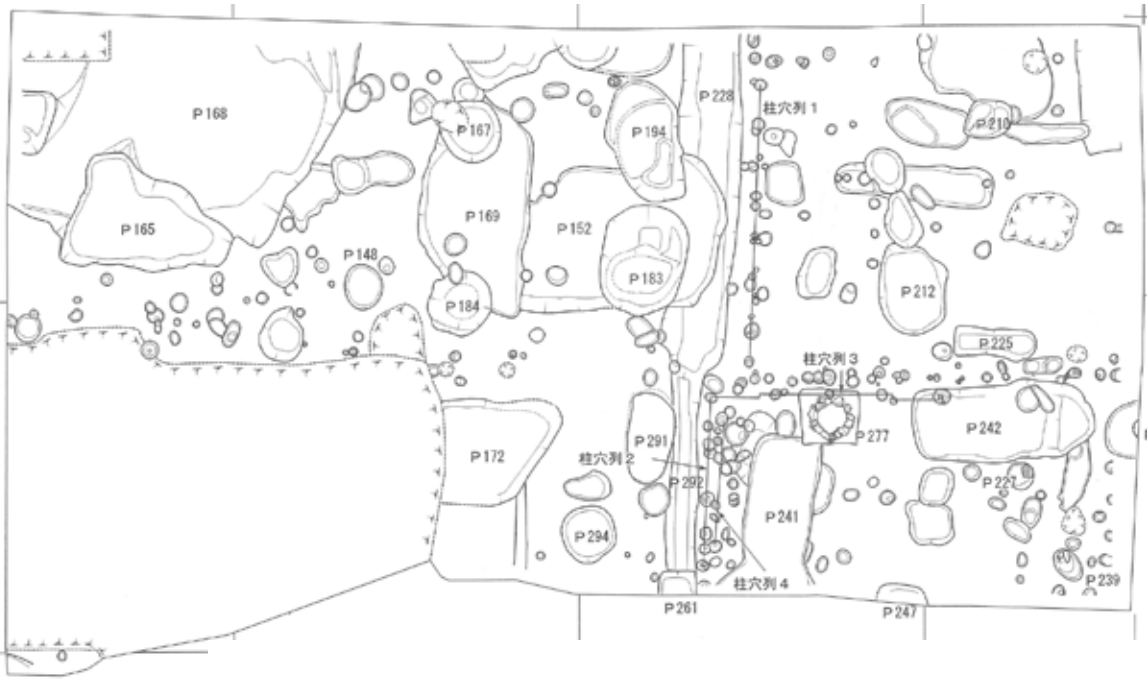


図2 三之外曲輪跡遺構平面図 (表町三丁目 2区調査区)



図3 屋敷割と調査区 (左上が2区調査区)

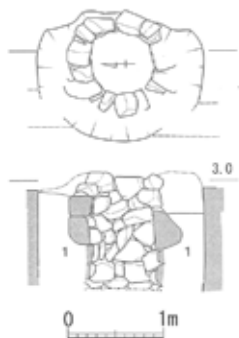


図5 3区調査区井戸

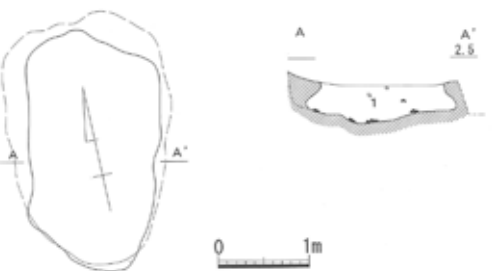


図6 2区調査区ごみ穴 P291

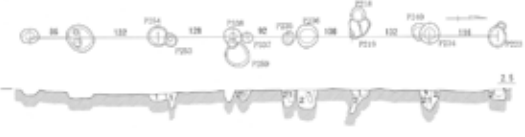


図4 2区調査区柱穴列1



図8 3区調査区出土遺物

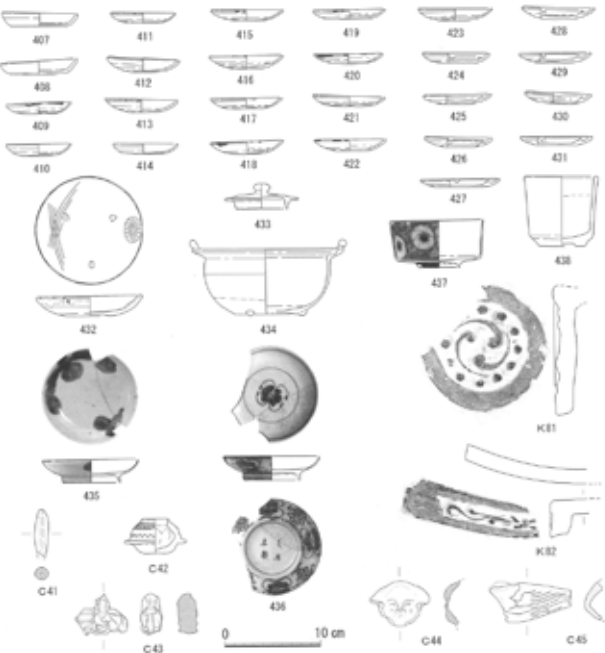


図7 2区調査区ごみ穴 P291 出土遺物